（様式１）

2019年度総合情報基盤センター研究開発報告書

2020年5月10日

	氏　　名	所　　属
研究代表者	緒方　泉	地域共創学部地域づくり学科
研究分担者	吉田　公子	大学美術館
研究課題	「異文化理解促進」に向けた、留学生と日本人学生が創る多言語対応eラーニング学習教材とその学習効果の検証	
研究開発期間	2019年4月1日　～　2020年3月31日	

研究の概要

申請者は、平成29年度、平成30年度2ヵ年に渡り、本学総合情報基盤センターから研究開発費の採択を受けた。そして「学芸員養成課程における反転授業を可能にするeラーニング学習教材の開発と学習効果の実証的研究(1)(2)」という研究開発課題を持って、学芸員養成課程で修得すべき4つの技術（守る技術＝保存、調べる技術＝調査研究、見せる技術＝展示、伝える技術＝教育）が学べるeラーニング学習教材となる学芸員養成マニュアル【学芸道シリーズ】を制作した。

制作した学習教材は、文化財資料の「梱包材」の作成方法や文化財資料の中でも取扱い頻度が高い「茶器」「仏像」「掛軸」「甲冑」などをテーマに14本、総映像時間約70分となった。

福岡市博物館は、急増する訪日外国人観光客に対する受け入れ環境向上のため、常設展の多言語音声ガイドサービス、ガイドブックの制作など、多言語環境の促進を図っている。

このように、訪日外国人に向けた博物館などでの多言語解説事業は推進されているが、留学生の「日本文化理解促進」に向けた情報提供はどうなのだろうか。日本留学に関する総合情報提供を行う独立行政法人日本学生支援機構HP「Gate way to Study in JAPAN」は、日本語、英語、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語で対応している。HPは日本留学に関する基本情報は充実しているが、「日本理解促進」「日本文化体験」の項目で具体的に日本文化を紹介する映像資料は用意されていない。

こうした現状から、今回の研究は、これまでに制作した「学芸道シリーズ」を多言語化させることで、留学生に向けた「日本文化理解促進」を図るeラーニング学習教材の開発とその学習効果の検証を、その目的とした。

研究の成果

多言語化に当たっては、これまでに英語版「梱包材の作り方」「茶器の取扱い方」「掛軸の取扱い方」の3本の制作実績（文化庁「大学における文化芸術推進事業」）があったことから、今回、それらの中国語版、ベトナム語版を作成する予算を申請していたが、残念ながら減額採択となったことで、今回は中国語版、ベトナム語版の「梱包材の作り方」の映像資料を2本のみ作成した。

なお、「梱包材の作り方」を選定した理由は、日本古来の文化財を守る作法が分かるため、英語版とセットにする最適の資料と考えたためである。

中国語版、ベトナム語版を作成するため、本学国際交流センターの協力を得て、以下の２名の留学生の紹介を受けた。

【中国語版】18GKK01 王 丹青（オウ タンセイ）（女）

【ベトナム語版】18EE215 Tran Thi Ngoc Tram（チャン ティ ゴク チャム）（女）

2019年6月以降、制作趣旨の説明、日本語版の視聴、それを受けて日本語シナリオ原稿の翻訳、収録、データチェックというプロセスを経て、完成に至った。

その後、文化庁「大学における文化芸術推進事業」に係る「ミュージアムカフェ」に、中国、ベトナムからの留学生の参加を得て、映像資料の視聴、博物館見学などを行い、日本文化理解の促進に努めた。合わせて、日本人学生、博物館学芸員との交流から、留学生の視点も加わった「博物館等の文化施設における外国人旅行者の受け入れに関する調査アンケート」作成に至った。

今後も外部資金の獲得を目指し、「茶器」「掛軸」「仏像」などの取り扱い方の多言語映像資料の拡充に努めていきたい。

以　上

※　提出締切日　：2020年5月15日（金）（期限厳守）